

本文

※①は『古今和歌集』、②は『徒然草』第七段による。③～⑯は学習用のオリジナル例文（擬古文）です。

- ① この子を見れば、苦しきこともやみぬ。腹立たしきことも慰みけり。
- ② われは京には上らじ。この山里にてこそ世を終へめ。
- ③ さりとも、この事人にはよも漏らさじ。
- ④ かばかりの罪 神も許させたまはじ。
- ⑤ 今は限りと思へば、何ごとも惜しからじ。
- ⑥ かかる乱れたる世には、誰か頼もしき人のあらむ、頼もしき人もあらじ。
- ⑦ 雨いたく降れば、今宵は人も来じ。
- ⑧ われ生きてあらむ限りは、この恩を忘れじ。
- ⑨ かの人の心、よも変はらじとぞ頼みける。
- ⑩ かばかり言ひてだに聞き入れねば、まして人の言葉をば用ゐじ。
- ⑪ つゆ違はじと、固く契りをかはしけり。
- ⑫ よも、たやすくは討たれじ。
- ⑬ 世を捨てし身なれば、今さら都の事も問はじ。
- ⑭ 老いぬる身は、再びこの花を見ることもあらじ。
- ⑮ 春の夜の闇はあやなし。梅の花 色こそ見えね 香やは隠るる。
- ⑯ 命長ければ恥多し。長くとも四十に足らぬほどにて死なむこそ、めやすかるべけれ。

設問

1. 例文①には「じ」は用いられていない。例文①の中から、助動詞「ぬ」（完了）と助動詞「けり」（過去）をそれぞれ抜き出し、終止形で答えよ。
2. 例文②「上らじ」の「じ」の意味として最も適切なものを、打消推量・打消意志のいずれかで答えよ。また、そう判断した手がかり（主語の人称）も記せ。
3. 例文②「上らじ」を単語に分け、「上ら」が（基本形・活用形）でいうと何の何形であるかを答えよ。
4. 例文③「漏らさじ」の「じ」の意味を、打消推量・打消意志のいずれかで答えよ。
5. 例文④「許させたまはじ」の「じ」の意味を、打消推量・打消意志のいずれかで答えよ。
6. 例文④「許させたまはじ」とほぼ同じ「打消推量」の意味を、より強い禁止・不可能のニュアンスを込めて表す場合に用いる助動詞を、次から一つ選べ。
 - (ア) べし (イ) まじ (ウ) らむ (エ) けり
7. 例文⑤「惜しからじ」の「じ」の意味を、打消推量・打消意志のいずれかで答えよ。
8. 例文⑥「頼もしき人もあらじ」を、「じ」の意味を踏まえて現代語訳せよ。あわせて、この「じ」が打消推量・打消意志のどちらかを答えよ。

9. 例文⑦「来じ」の「じ」の意味を、打消推量・打消意志のいずれかで答えよ。
10. 例文⑦「来じ」の「来」は、カ行変格活用動詞「来（く）」の活用形である。その読み（ひらがな）と活用形の名称を答えよ。
11. 例文⑧「忘れじ」の「じ」の意味を、打消推量・打消意志のいずれかで答えよ。
12. 例文⑧「この恩を忘れじ」を、推量の助動詞「む」を用いた肯定の言い方「この恩を忘れむ」と比べると、意味はどう変わるか。「む」と「じ」の関係に触れて説明せよ。
13. 例文⑨「変はらじ」の「変はら」の活用形を答え、なぜその形になるのかを「じ」の接続に触れて一文で説明せよ。
14. 例文⑩「用ゐじ」の「用ゐ」は上一段活用動詞「用ゐる」の活用形である。何形か答えよ。
15. 次の各「じ」について、主語が一人称か三人称かを示し、それに基づいて意味（打消推量／打消意志）を判別せよ。
- 例文⑪「違はじ」
 - 例文⑫「討たれじ」
 - 例文⑬「問はじ」
16. 助動詞「じ」が活用語に接続するとき、その活用語は何形になるか。活用形の名称を漢字で答えよ。
17. 「じ」は無変化に近い活用をするが、終止形以外の用法も存在する。例文⑥「あらじ」の「じ」、および例文⑪「違はじ」との「じ」は、それぞれ文中での働きとして連体形・終止形のどちらと考えられるか答えよ。
18. 次の例文を現代語訳せよ。
- 例文②「われは京には上らじ。」
 - 例文⑦「今宵は人も来じ。」
19. 次の例文を現代語訳せよ。
- 例文⑧「われ生きてあらむ限りは、この恩を忘れじ。」
 - 例文⑭「再びこの花を見ることもあらじ。」
20. 傍線部の「じ」と、打消の助動詞「ず」とを識別したい。次の各文の下線部が「打消推量・打消意志の『じ』」か「打消の『ず』（の活用形）」かを答えよ。
- (a) 人にはよも漏らさじ。(例文③)
 - (b) 梅の花 色こそ見えね。(例文⑮)
21. 例文⑯「死なむこそ」の「む」と、例文②「上らじ」の「じ」は、推量・意志の上でどのような対応関係にあるか。「肯定」「打消」の語を用いて一文で説明せよ。
22. 「じ」と意味の上で対(つい)になる推量の助動詞「む」について、「む」が一人称主語のとき表す意味を一語（漢字二字）で答えよ。